BEST AVAILABLE COL

⑩ 日本国特許庁(JP)

全种人造成小用

⑩ 公 開 特 許 公 報 (左

"466 **- 2**26696

@Int Cl 4 F 28 F 1/16 В 21 D 53/06 28 F 1/26 識別記号 庁内整理番号 一個 阿尔萨(1986)作用出出

6748-3L 6778-4E

6748-31.

審査請求

2000年 発災の登记 1.2200

❷発明の名称

フィン付伝熱管及びその製造方法

到特 願 昭59-82427

22出 願 昭59(1984)4月24日

砂発 明 者 光 男 神 坂

長崎市館の浦町1番1号 下海電工業株式会社長等海電所

個発 明 者 菊 地

洋

長崎市館の補町1番1号 三年度工業株式会社長院研究所

⑦発 明 者 Л 耷 広 田

高砂市荒井町新浜2丁目)添1号,三蹬鷹工業級式会社庭

砂研究所内

@発 眀 者 浜·中

明 亮

高砂市荒井町新浜2丁目1番1号 三菱原工泵探线总社形

砂研究所内

三菱重工業株式会社 の出願人

東京都千代田区丸の内2 1 3 6 巻 1 号

00代 理 人. 弁理士 坂 間 暁 外2名

最終頁に続く

1. 発明の名称

フィン付伝熱管及びその製造方法

- 2. 特許請求の範囲
 - (1)外周に多数のフィンを有するフィン付伝熱管 において、伝熱管外周に設けた複数条の突起 を切起して前配フィンとなし、前配伝熱管と フィンを一体化構造となしたことを特徴とす るフィン付伝熱管。
 - (2) 外間に多数のフィンを有するフィン付伝熱管 の製造方法において、伝熱管をその外間に被 数条の突起を一体に設けて成形し、同突起に 多数の斜方向切込みを入れ、同切込みから各 突起を切起すことによりフィンを形成してな ることを特徴とするフィン付伝熱管の製造方 法。
- 3.発明の詳細な説明
 - (産業上の利用分野)

本発明は、空間用熱交換器、空冷用熱交換器、

空気予熱器。 トーガル こうおおかいく こく することがでくいりずい 強張路 哲志はあるとき 方法に関するくいぐある。

(従来技術)

空気熱交換器に分野において前。 公送品の伝 熱面に、板厚が お以下の複貨のフィン(以下 板状フインと呼ぶり立思いたものごを及しての 場合、伝熱管性変性を保証でも出いる場合会体 として、その何なぞ、鶏の園が門房の前にあか 説明する。

第17回は、密度の複数フィン会体を管する強強 を示す斜視医で、管取出も本例ではとほごでき 平形伝熱管にくいしるものを助に玆。ラレカ法 状フィン02% 1. 点接的基本方式多用一种发出的 を距でて碁目、タメを鍛され、無ら23年の主じた 向(矢印方当、中平司を列と、とれら臨角変略 向の列を形立している。そして、配路管BIの内。 部には、前澤主をは黒体(ガス)の門橋議法なた は冷熱源が置きた。その外部を完厚方向れ構れ

(1)

角形状に成形して三角形状のフィンを形成することもできる。

第2 実施例

第3 奥施例

第7 図及び第8 図は第3 実施例を示すもので、フイン6 を第8 図に示す如く千鳥 状配置となるように切起したものである。

(7)

ができる。なお、フィン6の幅を上記のよう に順次幅広とすることにより各フィン6には 温度境界層が略同程度に形成され、後流側の フィン上の熱伝達特性の低下を防止し、高性 能なフィン付伝熱管を得ることができる。 第5 実施例

このようにフィン 6 間の間隙を順次大きくしているため、各フィン 6 には、略同じ程度の温度境界層が形成され、後硫 側に位置するフィン 6 の熱伝達劣化を防止し、高性能なフィン付伝熱管を得ることができる。 第 6 実施例 この場合、伝熱質1の外周面に複数条の突起2を成形し、この突起2に切込み4を入れ、第7図に示すように、隣合う切起し面7a,7bを、伝熱管1の外周に一定ピッチPiで成形された複数条の突起2に沿つて所要Piだけずらして設けた切起し工具7Aを用いて切起すことにより製造することができる。

このようにフィン 6 が 千鳥状配置となるように 切起す ことにより 碁盤目状 に配置した ものにくらべ 後流 仰のフィン上の 境界層 K をうすく することができるため、 伝熱性能の向上を図ることができる。

第4 寒施例。

第9図及び第10図は第4実施例を示すもので、伝熱管1の外周に成形する突起2の幅を空気の流れに沿つて幅LiがLiくLiくLiくLiくLiくLiなんした以外、第1実施例と同様であり、同様の方法により第10図に示すようなフィン付伝熱管を製造すること

(8

第13 図及び第14 図は第 6 実施例を示すもので、伝熱管 1 の外周に成形する 突起 2 間の間隔 3 を部分的に大きくした以外は第 1 実施例と同様であり、同じ方法により製造することができる。 なお、フィン 6 間の空気の流れ方向と直交する方向の間隔を部分的に大きくすることもできる。

このように、フィン6間の間隔3を部分的に大きくしておくことにより、フィン6上に形成された水滴が成長しても水膜を形成することがなく、間隔の大きい部分で落下するため、良好な熱伝達特性を維持することができる。

第7実施例

第15 図及び第16 図は、第7 実施例を示すもので伝熱管1の外周に成形する突起2のうち空気流れに対して最上流に位置する突起2を他のものより幅広に成形した以外は第1 実施例と同様であり、同様の方法の製造すること

ができる。

このように空気流れに対して最上流のフィン6を幅広とすることにより空気中に小石、砂等が含まれていてもこれが衝突して破損することがなく、耐久性を向上させることができる。

なお、上記した第1乃至第7 実施例は2以上の実施例を互に組合せて実施することができる ことはもちろんである。

4. 図面の簡単な説明

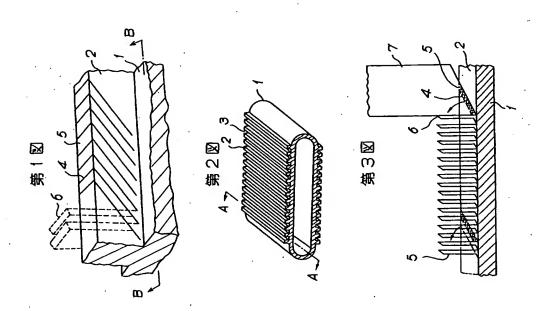
第1図乃至第3図は本発明の第1実施例を示すもので、第1図は第2図の A - A 矢視図 B - A 矢視図 C 第 3 図は第1図の B - B 会視図、第4図の 第 6 図は第2実施例を示すもので、第4図は伝熱管の斜視図、第5図は 5 図は 5 ののののののののののののので、第6図は 5 のは 5 のは 5 のののので、第7図は 5 をが 6 図は 5 を示するので、第7図は 5 をが 6 図は 5 を示するので、第7図は 5 をが 6 図は 5 を示するので、第7図は 5 をが 6 図は 5 をが 6 図は 5 をが 6 図は 5 を 7 図は 5

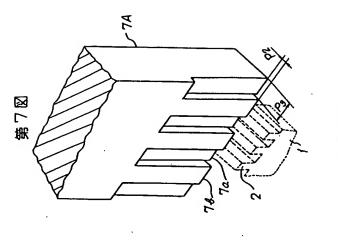
1: 伝熱管、2: 突起、3: 間隔、4: 切込み、5: 切込みを入れられた突起、6: フィン、7: 切起し工具

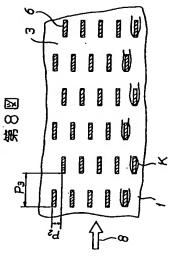
代理人 扳 間 明空間

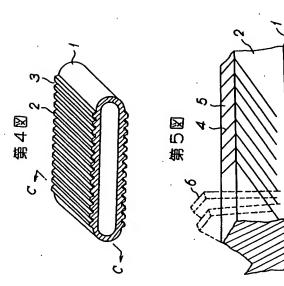
an

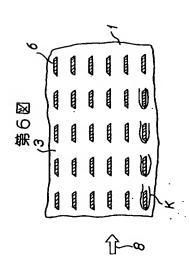
(12)

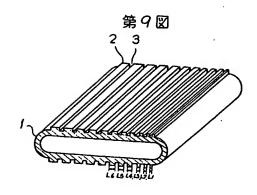


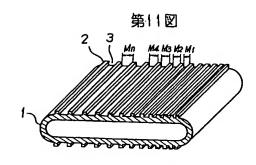


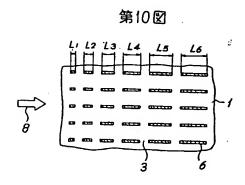


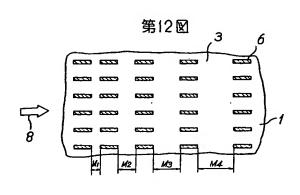


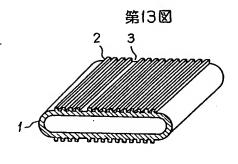


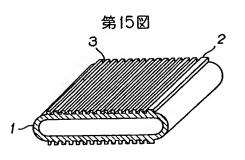


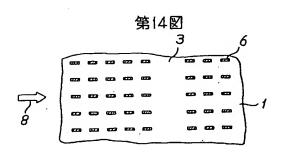


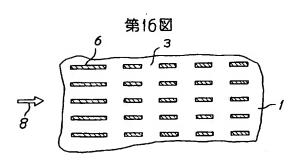


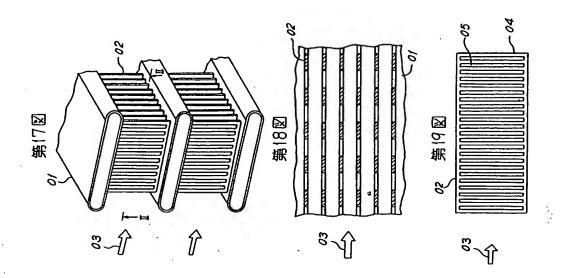












名古屋市中村区岩塚町字高道1番地 三菱重工業株式会社名古屋研究所内 名古屋市中村区岩塚町字高道1番地 三菱重工業株式会社名古屋研究所内

愛知県西春日井郡西枇杷島町旭町3丁目1番地 三菱<u>重工</u> 業株式会社名古屋冷熱工場内

This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:
□ BLACK BORDERS
☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
☐ FADED TEXT OR DRAWING
☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
☐ OTHER:

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.